トップの視点

知識の寡占

静岡県立大学　学長　内藤　耕二

プロローグ

今から10数年も前のこと，ゼロックスやビデオテープが流行し出し，やがて大規模なコンピュータ時代の波がおしよせてこようとしていた．学界も，教育界も企業もその波を大きくかぶることとなる．

ゼロックスが大学図書館に持ち込まれ，学生や研究者の生活動態が様変りした．ふだんさぼっていた学生は友人のノートを借りてゼロックスする．書架から教科書をとり出して，秘かにページを切りとる輩はゼロックスにくらがえするようになった．

これまで，落頁に悩まされていた図書館員の仕事がまた一段とふえることとなった．これまでぽつぽつ始められていた文献の必要部分だけのコピーの需要が爆発的にふえた．はじめは学生アルバイトの手に頼っていたゼロックスの仕事は到底アルバイトでは片づかなくなってゆく．人手を1人ふやし，2人ふやしていったゼロックスアルバイトの数がいつのまにか5人，10人を超え，コピー機も1台から数台にふえていった．こうして，いつのまにか図書館の片隅での仕事が地下室フロア一杯に広がることとなった．内外文献のコピー需要はひきもきらず，この仕事は大繁昌をきわめ今日に至っている．はじめは学内のほそぼそとしたサービスが，いつのまにか年間の仕事量は通常の研究者がびっくりするくらいのものとなってしまった．

これと相前後して流行したのがビデオテープである．テープによる教科書の吹き込みが流行のきざしを見せたことがあった．これまで，もっぱら視覚に頼っていた教科書が聴覚を通じたメディアにまでおよびそうになった．

テープ産業とコピー産業のはさみ打ちにあってあわてたのが出版界である．大手出版社も大学の教科書や参考書が売れなくなるとあわて出した．友人の出版社社長が真剣に社業の転換を考えるようになったのもこの頃である．

教科書は1冊あれば，これをテープにしたり，丸々コピーしてしまう．図書や文献の切りとりによる被害が少なくなり，図書館員がほっとしたのもつかのま，膨大なゼロックス需要には追いつかないくらい，仕事は繁昌し，企業としての経営さえ見込まれる勢いとなった．

これまで年間100万円を越す図書紛失に困りきっていた大学図書館からは，紛失も，頁の切抜もなくなった．一方，出版社はその対策に大童とならざるを得ない．教科書や文献雑誌類がパタッと売れなくなる心配は増大した．いわゆる教科書といわれる部厚い冊子は世の中からその姿を消すのではないかと心配されたほどである．かてて加えて出版労働事情は激変し，いわゆる3Kをきらう弱年労働者の出現に手をやくようになる．出版業は表面の華やかさに比べ，実体は大都会の裏長屋の手作業にたよってその命脈をつないでいたのである．

日本の大学で使われる大部分の教科書は韓国で作られているということを聞くようになったのはこの頃である．

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．

洋書の値段は下がらない

終戦直後の1ドル360円時代からドルが急に値下りしてわれわれは色めき立った．当時のサラリーに比して，洋書はあまりにも高く，なかなか手の出るものではなかった．研究者にとって欠くことのできない月刊外国雑誌の入手も手ごわい相手であった．外国研究者ならば個人用として求める科学雑誌も，日本人は共同購入でしか入手できない．一研究者，一研究室では到底入手できない高価な文献も少なくない．数研究室が資金を拠出して一種類の雑誌をかろうじて入手している例は至るところである．

研究者にとって文献は貴重である．貴重を通りこして命であるといってもいいかも知れない．その昔，明治大正時代には外国教科書や外国文献にアクセスできるものは一握りの教授職にあるもののみであった．学生や通常の研究者の経済状態は外国文献へのアクセスを自由にさせるにはほど遠いものであった．

教授のみが大書肆を通じて外国文献を自由自在に入手できる社会的地位と経済力を持っていた．学生が末は博士か大臣かともてはやされた時代の流れはまだつづいていたのである．大学教授ともなればバックヤードに一大書庫をかまえ，軽井沢に別荘を持つというのが常識であった．大学教授は社会的にも，経済的にも，トップクラスのエリートであった．有名な教授ともなると教育費（機密費）と称する別途の財源もあったらしく，学生や弟子を自宅に招致して練育に精出したといわれる．某大学教授がバックヤードに鉄筋の堂々たる書庫をかまえているのを見て羨望の情禁じがたいものがあった．万巻の書は蔵にありとの寮歌を想い出したりした．この書庫にアクセスできるものは教授自身とその近辺の一族郎党のみであったのである．かくて知識の独占が可能とされる時代が明治から第二次大戦の頃までつづいた．この時代には知識は輸入されるだけで創造されるものではなかった．

敗戦はこのような様相を徹底的にかえてしまった．外国文献はマッカーサー司令部支配下の日比谷図書館を通じてしかアクセスできないのである．地位も経済力もまったく関係のない知識の宝庫が日比谷の図書館にのみ蔵されていたのである．教授も学生も朝起きして，列をつくって図書館の前に並んだのである．ここでは地位も金も用をなさないのである．国外の知識がここを通ずる細いチャネルで全国に流通していったのである．早起きをすれば教授よりも誰よりも早く外国文献に接し得られたのである．

日本にはじめて輸入された文献にいち早く接しそれをもとに研究を開始し，いち早くこれを学界に発表するという風潮がおこった．この時代には誰よりも早く世界の文献に接するということが研究者の死命を制することとなったのである．得てしてこのような仕事は，さも世界最初であるかのごときロ上で発表されることが多く，皮肉るものは“なに，あれは本邦初演だ”としたり顔にさげすんでいた．

一方，為替レートは下がってドルは安くなるのに一向に洋書の値段は下がらないという，素人には理解し難い事態がつづき今日に至っている．学者研究者が少々苦情を呈しても，ビクともするものではなかった．フラストレーションの数年後に徐々に明らかになったのは，アメリカ側に指摘された日本の複雑怪奇な流通機構がその根底にあるということであった．

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．